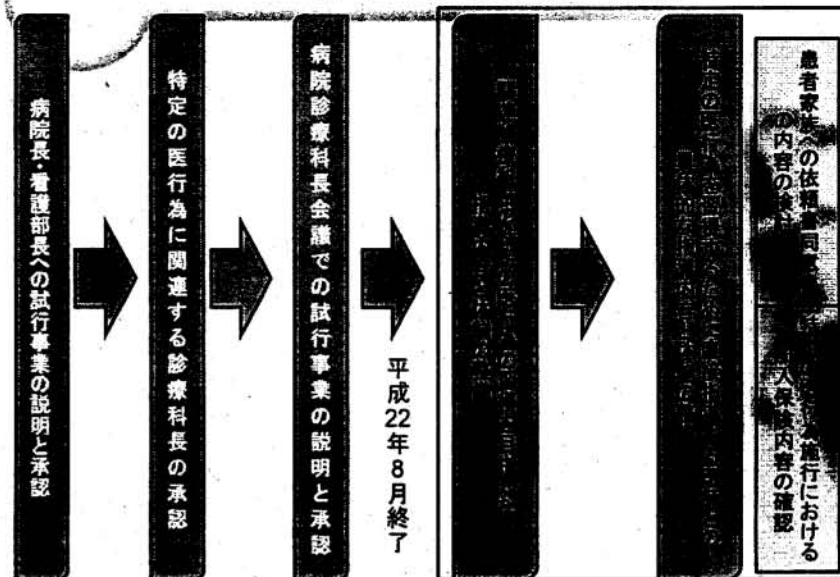


実習施設教育調整内容【大学全体】

1. 兵庫県立大学は大学院設置当初から専門看護師教育に焦点を当て、451名中103名を育成している。
2. 設立から17年を経過し、現場にいる専門看護師達からも治療的側面、特に病態や高度薬理などの知識が必要であることが言及されている。
3. 時代の要請からも、キュアとケアを融合させた高度実践看護師への変革を手掛けており、カリキュラムの改正に着手している。
4. 患者のQOLを向上させるために特色化事業「ケアの視点で特定医行為を担う高度実践看護師育成事業」を立ち上げ、特定看護師(仮称)の大学院教育に踏み切る。
5. 特定な医行為に踏み込んだ実習を行うので医師の教育参加が必要となる。

17

主たる実習施設(兵庫県立こども病院)における 医師等の指導体制の整備



18

事例①(特定の医行為を含む看護を提供することの効果 —がんによる有害事象『痛み』に対する薬の選択—)

包括的指示が得られることによって

- ◆ 麻薬の使用時間の変更
- ◆ 麻薬の増量の判断(医師の指示量の幅を広げる)
- ◆ 麻薬と一緒に使用する鎮痛剤の選択の判断
- ◆ 痛みコントロールに必要な補助薬(抗けいれん剤等)の選択の判断

※WHO徐痛ラダーの指示範囲での薬剤選択と投与

子ども家族の利益:痛みへの対応が的確かつ迅速に行われれば、子どもたちは痛みから早期に解放され、痛みケアへの積極的の参加でき、それは療養行動、回復力の促進につながる。家族にとっても子どもが痛みや苦痛から早期に開放され、医療満足につながる。

19

事例②(特定の医行為を含む看護を提供することの効果 —救急外来での初期治療の判断—)

包括的指示が得られることによって

- ◆ 高血糖・低血糖の判断と血糖測定のおオーダー
- ◆ 血管確保
- ◆ 喘息様発作の判断と初期治療(気管支拡張剤の投与、吸入薬の判断と実施)
- ◆ 親の療育能力の欠如・不足と子どもの受診との関連を判断し、看護外来(相談窓口)受診オーダー

子ども家族の利益:子どもの苦痛に早期に対応できる。家族は、救急外来での待ち時間が減り、早期に対応してもらったという医療満足につながる。育児に関する相談窓口への橋渡しは、母親の育児不安の軽減につながる。

20

事例③(特定の医行為を含む看護を提供することの効果
—病院・訪問看護における便秘調整剤の選択と投与—)

包括的指示が得られることによって

◆便秘調整のための薬剤の選択と投与

(整腸剤・下剤・浣腸の選択と適量の判断)

◆非薬理学的生活指導や介入との有機的つながりを設計

子ども家族の利益:早期に対応することで、脱水や衰弱を改善予防でき、栄養状態の改善できる。

特定の医行為を含む看護を提供することの効果の波及

